別紙

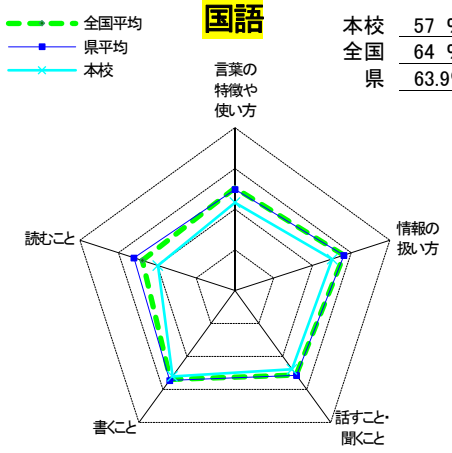
令和８年度
全国学力・学習状況調査
指導方法等の改善計画

呉市立音戸中学校
（音戸中学校区）

全国平均値との差

	国語	数学
呉市教育振興基本計画〈指標〉	＋５．０	＋５．０
令和８年度	－７．０	－６．０
令和７年度	－３．３	－６．３
令和６年度	－２．０	－５．５
令和５年度	－４．８	－４．０
令和４年度	－３．０	－４．４

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組　　◎･･･各学校　◇･･･中学校区



重点課題

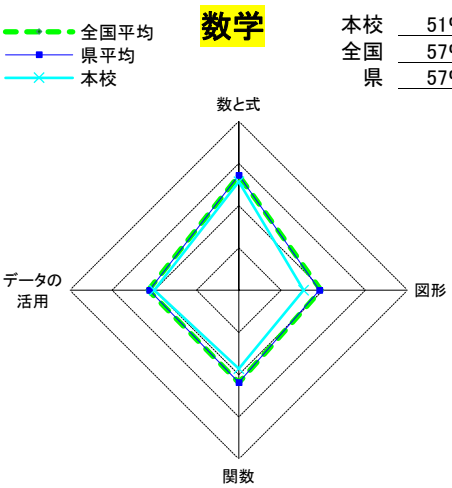
◎語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。(設問４二)【言葉の特徴や使い方】(平均正答率 25.6%)
◇言葉の理解や、各段落の要旨を捉えることに課題がある。
◇適切な引用の仕方、条件に沿って書くこと、絵や文など様々な情報から、必要な情報を選ぶことに課題がある。

改善の方策

◎語句そのものの意味だけでなく、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを考えさせ、辞書で調べた意味を記録したり、その語句を使って文脈に合う短文を作ったりする学習活動を設定する。
◇音読の機会を増やしたり、朝読書の時間を充実させたりするとともに、漢字や語句の意味を理解するために､辞書や ICT を効果的に活用する指導を徹底する。
◇読解の際には、絵や文など様々な情報から必要な情報を根拠を持って選び取る活動を行う。また、条件に沿って書く力を育てるために、書かせた文章の中で引用した部分と自分の意見を色分けして視覚的に確認させるなど、正しい引用の仕方を定着させる。

検証

◎全国学力（設問 4）の類似問題（第２学年、２月）
目標 40%→結果　%
◇２学期のテストの平均正答率（全学年）が４０%の未満の児童の割合
目標 0%→結果　　%



重点課題

◎「図形」領域の正答率が 38.4%で４領域中最も低い。全国（48.7%）との差が最大（▲10.3pt）である。「思考・判断・表現」の観点別正答率も 32.0%で､全国(39.1%)を▲7.1pt 下回っている。証明の根拠となる図形の性質を的確に捉えること（設問８(2)(3)）、二直線が平行になる条件を理解すること（設問３）に課題がある。
◇図形の意味の理解や頭の中で図形をイメージすることに課題がある。

改善の方策

◎証明問題に取り組む際は、仮定と結論を図に書き込んで整理させたうえで、根拠となる性質（平行線の性質、合同条件等）を生徒同士で確認し合う学習活動を単元計画に位置付ける。日常の授業でも「なぜそう言えるのか」を言葉や式で説明させる場面を継続的に設定し、思考・判断・表現の力を段階的に高める。
◇低学年の段階から継続して、具体物を用いて、実際に操作・体験させる活動を取り入れ、図形へのイメージを豊かにする。また、算数用語を用いた数学的な表現や説明を習慣化させる。

検証

◎全国学力の類似問題（第２学年、２学期期末考査）
（設問３）　　の類似問題 目標 60%→結果○%　図形の性質に関する問題
（設問８(2)(3)）の類似問題 目標 60%→結果○%　図形の証明・説明に関する問題
◇２学期のテストの平均正答率（全学年）が４０%の未満の児童の割合
目標 0%→結果　　%

【来年度に向けて】